

視察研修会

コロナが5類に移行され、気分的に一段落した安堵感が広がっている。インバウンドも街に溢れだしてきた。長く続いた大勢での行動自粛が解禁となり、2月13日(火)、4年ぶりに恒例であった視察研修会が行われました。今回は、和歌山県南部(みなべ)方面となりました。

主な行先は、JA紀の里の一番大きな直売所で、地場の野菜・果物をはじめとする農産物や加工品の他、鮮魚・精肉、花卉などを扱っている。規模や商品の種類、商品の展示方法、商品のラベル表示方法などを見学した。ミカンなどお土産のお買い物も楽しみました。



大きなインサイン看板



大きな売場・花卉売場・トイレ・広い駐車場

(店内写真・遠慮)

紀州南部(みなべ)と言えば、ブランド梅の南高梅(なんこううめ)とその梅林が有名です。

紀州梅の加工・販売を主な業とする、1916(大正5)年創業の(株)岩本食品を見学しました。工場に併設された直営販売店でのお買い物も楽しみました。



本社工場



別棟の工場の一部



社長から説明を受ける



百年超の大正年間製木樽

「一目百万、香り十里」との呼び声高い南部梅林は、日本最大級の広さを誇る。見渡す限りの山の斜面・尾根・谷を梅林が一面に埋めている。「今年は早いんです」と地元の方が話されておられた通り、花の盛りは少し峠を過ぎていたように思われました。例年より2週間以上も早い開花だと言うことでした。

周回路3kmの観梅Bコースはそのコースの半ばあたりまで上り坂が続く。その坂道を登り切った「夕陽百選・梅林公園」のところで、大半の者は足の疲れを覚えたことでした。それでそこから先にはいかずにUターンして下り坂の風景を見ながら観梅を楽しみました。4kmのAコースを挑戦した元気なメンバーもいました。



歓迎の入口から上り坂が始まる



満開の白梅



青く見えるのは収穫用のネット



向かいの山の斜面も埋め尽くされている梅林

長途のバス旅であったが、道中の車内では会話も弾み、予定通り無事に行事が終了しました。

(by 福岡利昭)